

■ 南区及び真駒内地域の現状・課題について

〈キーワード〉豊かな自然や景観、芸術とスポーツのまち、南区の玄関口

- ・真駒内公園や真駒内川などの豊かな自然や、駅前から見る桜山の美しい景観がある。
- ・アーティストやクリエイターが多く住んでいることから、「芸術のまち」を打ち出していくと良い。
- ・真駒内には札幌オリンピックの歴史やそのレガシー（遺産）、アイスアリーナなどの大型スポーツ施設があることから、「スポーツのまち」を打ち出していくと良い。
- ・南区には野菜や果物などの食や、小金湯、ピリカコタン（アイヌ文化交流センター）、定山溪などの観光資源がある。
- ・真駒内駅は最終駅ではなく、南区の玄関口になっている。

〈キーワード〉真駒内駅の利用、区民が集まる施設が立地、駅前通りのにぎわい

- ・南区に住んでいる人は、通勤・通学等で真駒内駅を利用することが多い。
- ・真駒内には南区役所や福祉センターなど多くの区民が集まる施設が立地している。
- ・駅前通りは公共施設や商業施設もあり、人通りが多く、にぎわいが感じられる。

〈キーワード〉高齢化、小学校の減少、消費の減少

- ・高齢化が進んでおり、特に上町では高齢者が多くなっている。
- ・小学校が閉校し、4校から2校になった。
- ・人口の減少に伴い、消費も減少している。

〈キーワード〉子どもが遊べる場所、子育てしやすい環境、若い世代

- ・「ちあふる」など子どもが遊べる施設はあるが、日曜日に利用できないこともあり、小さい子供が遊べる場所が少ない。
- ・保育園の数が不足しており、子育てをしながら働ける環境にない。安心して子育てができる環境づくりが必要である。
- ・地価が高かったり、間取りや家賃など学生や若い世代に合った住宅が整っていない。

〈キーワード〉駅前の交通アクセス、動線の混在

- ・バスの停留所が複数あるが、その先の交通機関への乗り換えなどが不便で、特に高齢者や障がい者に優しくない。
- ・駅前では、人と車と自転車の動線が混在している。

■ 真駒内地域の30年後の将来像について

〈キーワード〉南区の拠点、情報の発信

- ・自然、芸術、スポーツ、歴史など南区の豊富な資源を活かして、人や物が集まる南区の拠点になると良い。
- ・国内外に南区の観光や魅力を発信できる場所になると良い。

〈キーワード〉若い世代のニーズに対応、持続的なまち

- ・現在の真駒内のゆとりある落ち着いた暮らしを維持しつつ、子育て環境や住宅、買物など若い世代のニーズに対応したまちになっていくと良い。
- ・真駒内で育った子どもたちや通学していた学生たちが、一度真駒内を離れても戻ってきたくなるようなまちになると良い。

〈キーワード〉滞留・交流、にぎわいの点在、周遊、安全・安心

- ・カフェやフリースペースなど学生が勉強できたり、高齢者がおしゃべりできるような、滞留・交流を生む場所があると良い。
- ・広場や公園などでイベントが行われることや、小規模な店舗が並ぶことによって、にぎわいがあるまちになると良い。
- ・真駒内駅前を中心として、自然豊かな美しい景観を感じながら歩けるまちになると良い。
- ・徒歩圏内ににぎわいが点在し、それらがみどりなどでつながることで、周遊できるまちになると良い。
- ・バスの案内を外国人や来街者にもわかりやすくするなど、みんなにやさしいまちになると良い。
- ・夜も安心して歩けるように街灯などが整備されると良い。

〈キーワード〉多様な主体の連携、創造的な活動

- ・駅前のまちづくりを持続的に推進、運営していくための仕組みとして、まちづくり組織をつくると良い。
- ・札幌市立大学や東海大学などの教育機関・行政・住民等の様々な主体と連携して、まちづくりを進めていけると良い。
- ・住民の多様な交流からアイデアやチャレンジが生まれ、それを実現していけるように創造的な活動が行われていくまちになると良い。